

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】

○確かな学力の定着、体力・運動能力の向上
 教師一人一人の指導技術の向上をめざし、OJTを充実させ、授業改善に積極的に取り組んできた。また、学習につまずきのある児童に焦点を当てて、個別指導を充実させてきた。区学力調査の結果は、平均正答率で区の目標値をすべての学年で上回り、国語・算数それぞれ前年度比3.7ポイント、4.6ポイント上昇した。通過率は、国語・算数それぞれ前年度比6.6ポイント、9.8ポイント上昇した。本年度は、朝の本町タイムの指導を充実させ既習事項の習熟の徹底を図るとともに、ポートフォリオ等を活用し、児童一人一人の課題を明確にして指導を続けていく必要がある。また、「言葉で考える力」、「言葉で表現する力」の向上のために、語彙の拡張を図るための指導方法の開発や家庭学習の見直しを図っていく。

さらに、オリンピック・パラリンピック教育の更なる充実を図るとともに、体力・運動能力については、柔軟性や瞬発力、投力など更なる向上を目指して外部との連携、場の確保、指導方法並びに用具等の充実を含む学習環境の改善に積極的に取り組むことが必要である。

○個別支援教育の推進

特別支援コーディネーターを中心に、スクールカウンセラーの助言や難聴言語担任のかかわりによる全校体制での取り組みにより確実に充実してきている。コミュニケーションの教室を設置したことにより、これまで他校の通級支援学級へ通っていた児童や校内で支援が必要な児童へのきめ細やかな対応が行われており、指導の効果も出てきている。各家庭の理解推進のもと、ニーズのある児童が適時適切に支援を受けて苦手を克服し、力を伸ばしていけるように啓発を進めていく必要がある。

さらに、いじめ・不登校等、一人一人の心の問題にも注目し、さらにきめ細やかで迅速な対応が進めていけるよう取り組みを充実させる。

○教師力の向上

若手教員の増加に対応するとともに、中堅・ベテラン教員の恒常的な教師力向上を図るため、若手教員の指南役を務める中堅・ベテラン教師の意識と意欲の高揚によりOJTを一層充実させ、若手教員の基礎的指導技術の確実な習得と全教師の教育課題や児童の実態を的確に踏まえた指導力の向上を図っていくことが必要となる。

○保護者地域との連携

子供の教育に高い関心をもち、学校の活動に協力的な保護者の割合が、極めて高い。基本的な生活習慣の定着をはじめ、学校と家庭の指導の方向性の共有など、引き続き、様々な形で啓発活動を行っていく必要がある。地域住民は、学校の活動に大変協力的で、積極的に関わっていただいている。町会の青少年部の活動もとても盛んで児童の健全育成に大変意欲的に取り組んでいる。今後も連携を密にし、地域の資源や人材を十分に生かし、協力して教育活動を推進していくことが必要である。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組みの概要**重点的な取組事項－1 「基礎学力」の確実な定着と「思考力・判断力・表現力」の向上**

教師の指導力を向上させ、授業改善に学校全体で取り組むとともに、一人一人の課題を把握し、補習時間や家庭学習の充実に努め、児童の「基礎学力」の確実な定着と「判断力・思考力・表現力」の向上を図るとともに、一人一人の課題を把握し、特に「基礎学力」に課題のある児童への対応を一層充実させる。

重点的な取組事項－2 オリンピック・パラリンピック教育の推進

オリンピック・パラリンピック教育を通して、学力や体力の向上を図るとともに、自国文化理解、国際理解、障がい者理解を進める中で、他人を思いやる気持ちや共に助け合って生きようとする態度を育成する。

重点的な取組事項－3 教員の授業力の向上

OJT等を活用し、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりに向けての工夫・改善に取り組む。

重点的な取組事項－4 安心して生活できる環境づくりと個別支援教育の充実

いじめ・不登校への迅速・的確な対応を進めるとともに、学習面・行動面で配慮を要する児童への対応・体制の工夫、改善を進め、個別支援教育の一層の充実を図る。

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性**重点的な取組事項－1 「基礎学力」の確実な定着と「思考力・判断力・表現力」の向上**

○区学力調査において各学年の平均正答率は、区の目標値をすべての学年で上回った。通過率は、国語82.2%、算数87.9%で、算数は目標通過率83%を上回ったが、国語は若干下回る結果となった。しかしながら、2教科平均通過率の区平均通過率との差は、過去5年間で最も上回りが大きい結果となった。

○ノート指導の徹底を図るとともに、話し合いの機会の充実と場面の工夫により、思考力・表現力の向上に繋げることができた。

○年4回の読書週間により読書への意識付けを行うことができた。

◆「言葉で考える力」、「言葉で表現する力」の向上のために、語彙の拡張を図るための指導方法の開発や家庭学習の見直しを図っていく。また、新聞の活用について一層の工夫を図る。

重点的な取組事項－2 オリンピック・パラリンピック教育の推進

○オリンピック・パラリンピック教育を推進し、特に「障害者理解」や「国際理解」に関する教育の機会を充実させることで、児童の興味・関心を高め、理解を深めることができた。

○体験したことをもとに日本障がい者スポーツ協会・日本パラリンピック委員会主催の「すごいぞ！パラリンピック」絵画・作文コンクールに出品し団体賞を受賞した。

○体験授業の実施に当たっては、新学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」となるよう事前の

調べ学習の充実、体験後の感想交流、絵や作文、新聞などによるまとめの表現活動を行い、オリンピック・パラリンピックのレガシーが子供たち一人一人の中に確実に残るよう、引き続き指導の工夫を図る。

○各学年において食育・保健指導を実施し、児童の健康に関する意識が高まった。

◆スポーツテストで平均値を下回った種目について、当該の力を伸ばすための手立てを講じていく必要がある。意識面で運動が嫌い・苦手とする児童を減らすための取組を推進する。

重点的な取組事項－3 教員の授業力の向上

○「特別の教科 道徳」について、改定の趣旨を踏まえた授業づくりに取り組むとともに、評価の在り方について検討を深めることができた。

○幼保小連携の推進で、低学年の指導の工夫改善を図ることができた。

○小中連携では、授業及び行事を互いに参観し、発達段階に応じた指導方法や児童・生徒理解について学ぶことができた。

◆「主体的で対話的な深い学び」について、さらに研修を深めるとともに、発達段階に応じた指導方法の検討、工夫・改善に一層努める。

重点的な取組事項－4 安心して生活できる環境づくりと個別支援教育の充実

○特別支援コーディネーターを中心に、スクールカウンセラーの助言を受け、全校体制での取り組みにより確実に充実してきた。

○コミュニケーションの教室の指導で配慮を要する児童の個別支援計画の見直しが進み、よりニーズに応じた指導が推進された。

○研修会を通して、配慮を要する児童への各教員の対応力が向上した。

◆各家庭の特別支援教育に関する理解の推進に努めてきたが、今後も一層の連携を図っていくために、情報交換の場や方法を工夫・改善していく必要がある。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

本年度も、授業や学校行事においてたくさんのご協力をいただきありがとうございました。児童は学習や生活に意欲的に取り組み、多くの成果をあげることができました。特に、学力定着や豊かな人間性の育成に欠かすことができない、生活リズムづくりや規範意識の醸成を目的とした「わたしの1週間」「あいさつ言葉遣い週間」の取り組みでは、多くの声かけや励ましをいただきました。また、地域での様々な体験や人との出会いを通して、自分たちが暮らす街への愛着や誇り、喜びを感じることができた1年間であったと思います。子供たちの更なる成長に向けて、ご家庭の協力と地域の皆様の支援を引き続きお願いいたします。

2. 平成30年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

重点的な取組事項－1 「基礎学力」の確実な定着と「思考力・判断力・表現力」の向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
教師の指導力を向上させ、授業改善に学校全体で取り組むとともに、一人一人の課題を把握し、補習時間や家庭学習の充実に努め、児童の「基礎学力」の確実な定着と「思考力・判断力・表現力」の向上を図るとともに、一人一人の課題を把握し、特に「基礎学力」に課題のある児童への対応を一層充実させる。	平成30年度区学力調査目標通過率(学校平均) 通過率83%以上	国語 82.2% 算数 87.9%	・基礎学力が定着していない児童について、補習時間の確保及び家庭学習の充実に努めていく必要がある。	○	
目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基礎学力(読み、書き、計算)の確実な定着を図る。	○国語・算数のワークテストで80%を到達目標値とし、全児童の83%が達成できるようにするとともに、区学力調査において、通過率83%を上回る。	○本町タイム(週3回)で音読・暗誦、計算、視写、新聞活用、俳句作り(芭蕉タイム)を実施する。 ○毎日の宿題の内容を工夫し、家庭学習の習慣を確実に身に付けさせる。自学ノートづくりを推奨する。 ○そだち指導と連動した指導を図る。	・ワークテストで到達目標値80%を国語で88%、算数で86%の児童が上回ることができた。 ・区学力調査算数において目標通過率83%を大きく上回ることができた。 ・音読発表会2回実施 ・ポートフォリオ・SP表を活用して、一人一人の学習の特徴や未定着部分の把握。	・今後も・東京ベーシックドリルや各種プリント等を活用し、児童の課題を明確にし、指導を行う。	○

<p>言語活動の重視で「思考力・判断力・表現力」の向上を図る。</p>	<p>○自分の考えを書く授業を3年生以上で、年間で10回以上実施する。 ○3年生以上で、新聞を活用した授業・指導を実施する。</p>	<p>○「話して書いて伝え合う」授業を心がけ、「話し合い」では、ペア・グループ・全体など、場の工夫を行い、自分の考えを伝える時間の確保を図る。 ○ノート指導の徹底(記述スピードと自分の考え)を図る。 ・足立スタンダードに基づく授業ノート ・ノートコンテストによる学び合い ○新聞の利用で活用力の向上を図る。 ○年4回の読書週間により読書への意識付けを行う。 ○体験的学習や問題解決的な学習の充実を図る。</p>	<p>・ノート指導の徹底を図るとともに、「書くこと」の機会の充実と場面の工夫により、思考力・表現力の向上に繋げることができた。 ・3年生以上の教室に新聞を配置。新聞の記事を基にした朝の会でのスピーチや新聞記事のスクラップを各クラスで年間を通して実施することで、自分の考えまとめ伝える機会を増やすことができた。 ・読書カードや読書週間の実施で、読書への興味関心を高めるとともに、習慣化を図ることができた。</p>	<p>・一層の推進を図り、「判断力・思考力・表現力」の向上を図る。</p>	<p>○</p>
-------------------------------------	--	---	---	---------------------------------------	----------

重点的な取組事項－2 オリンピック・パラリンピック教育の推進

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
<p>オリンピック・パラリンピック教育を通して、学力や体力の向上を図るとともに、自国文化理解、国際理解、障がい者理解を進める中で、他人を思いやる気持ちや共に助け合って生きようとする態度を育成する。</p>	<p>○内部評価における肯定的評価が90%を上回る。</p>	<p>・内部評価における肯定的評価は児童90%、保護者86%だった。</p>	<p>・取り組みを継続させ、さらに運動に親しむ児童を増やすとともに、柔軟性や瞬発力などを高めるための日常的な取り組みについて検討する。</p>	<p>◎</p>	
目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
<p>体育的活動等の工夫・改善に取り組み、児童一人一人が運動に意欲的に取り組むようにする。</p>	<p>○児童に対するアンケート調査で、運動に意欲的に取り組むということに関し肯定的な回答が90%を上回る。</p>	<p>○休み時間や放課後の遊び・体育集会・朝スポーツ等の充実を図り、児童が進んで運動に親しめる場を増やしていく。</p>	<p>・意識調査で「もっと運動をしたい」という児童の割合は2つの学年で90%を上回り、全体の平均は87.1%だった。</p>	<p>・「運動が嫌い、運動が不得意」という児童の割合を減らすための取組が必要である。</p>	<p>○</p>
<p>オリンピック・パラリンピックに関する教育や国際理解教育を推進する。</p>	<p>○オリンピック・パラリンピック教育を総合的な学習の時間のひとつの柱として実施する。 ○国際理解教育に関する授業を全学年対象に実施する。</p>	<p>○オリンピック・パラリンピック教育全体計画に基づき、「どんな方法で」「どんな力がつくか」を明確にした授業を実践する。 ○オリンピック・パラリンピックの精神や歴史などについて、調べ学習・発表学習を行う。 ○ゲストティーチャーによる授業を通して、異文化理解・国際協調などについて学ぶ。</p>	<p>・オリンピック・パラリンピックに関する教育や国際理解教育を推進することで、児童の興味関心を高め、理解を深めることができた。特に「障害者理解」について体験活動を充実させることができた。 ・中学年外国語活動をキャリア教育と関連させ、TGGで英語体験を行った。</p>	<p>・体験活動をさらに充実させることで、一層の推進を図る。</p>	<p>◎</p>

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
食育や保健指導の充実を図るとともに、保護者に対しても積極的に発信し、連携して児童の健康に関する意識の改善を推進する。	○各学年で、養護教諭や栄養教諭が、5回以上健康に関する授業を行う。また、保護者対象の健康に関する講演会等を開催する。	○体育科の授業や健康診断の機会、給食前の時間を活用し、養護教諭・栄養教諭が中心になり、食育や健康教育を実施するとともに、保護者対象の健康に関する講演会等を開催する。 ○SOS教育やがん教育など、新たな課題に関する実践を充実する。	・養護教諭・栄養士が授業以外でも、積極的に食育指導や保健指導を行った結果、自らの健康に関心をもつ児童が増加した。保護者に対しても、積極的に情報発信をすることができた。	・SOS発信の仕方やがん教育など、新たな課題についても指導を充実させていく。	○

重点的な取組事項－3 教員の授業力の向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
○JIT等を活用し、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりに向けての工夫・改善に取り組む。	○内部評価における肯定的な評価が90%を上回る。	保護者アンケートでの十分達成・達成は70%	・アンケートの自由記述で課題になった点を改善できるよう次年度に取り組んでいく。 ・「分からない」と回答した数が20%以上に及んでおり、取組内容について保護者へ積極的周知を図る必要がある。	△	
目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりに向けての工夫・改善に取り組む。	○年間6回授業研究を行う。	○「何ができるようになるか」を明確にした授業づくりについて、検討・実践する。 ○ベテラン教員による研鑽塾の実施と教科専門指導員の定期指導により、若手教員の基礎指導力を育てる。 ○道徳、外国語活動について、年間を通して計画的に研修を実施する。	・「特別の教科 道徳」について、改定の趣旨を踏まえた授業づくりに取り組むとともに、評価の在り方について検討を深めることができた。	・主体的で対話的な深い学びについて、さらに研修を深める。	○
幼保小連携の推進で、低学年の指導の工夫改善を図り、学力向上を目指す。	○研修内容や交流活動の改善を図り、工夫した交流研修・交流活動を実施するとともに、全教師が幼稚園・保育園の指導を参観する。	○交流活動や交流研修を中心に、互いに意見を出し合いながら内容を充実させるとともに、相互に参観する機会を設けることで発達段階や指導方法への相互理解を深める。	・幼保小の連携では、交流研修や交流活動に一層の工夫が見られるようになった。幼稚園・保育園との情報交換も緊密にできるようになった。	・まだ工夫する余地があるので、意見交換を行い、より良いものにしていきたい。	○
小中連携の推進で、学習指導・生活指導の工夫改善を図り、学力向上・健全育成を目指す。	○小中連携第二期3年計画の第3年次として、6回の全体会・分科会を通して、研究・実践を進める。	○学力の基礎（理系）・学力の基礎（文系）・道徳教育・生活指導の4部会を設け、「千住地区の子供たちの生きる力をどう高めていくか」3校合同で検討し、授業実践を通して指導力を高める。	・6回の合同研究会を実施し、研究体制の確立と相互理解の促進を推進することができた。 ・12月に本校を会場に外部講師を招聘しての合同研究会を実施して研究を深めた。	・本年度の成果をもとに、さらに充実したものにしていきたい。	○

重点的な取組事項－４ 安心して生活できる環境づくりと個別支援教育の充実

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
いじめ・不登校への迅速・的確な対応を進めるとともに、学習面・行動面で配慮を要する児童への対応・体制の工夫、改善を進め、個別支援教育の一層の充実を図る。	○内部評価における肯定的な評価が90%を上回る。	・保護者アンケートによる十分達成・達成は75%	・「分からない」の回答が16%あった。取り組みに関する積極的な発信が必要である。 ・特別支援教育に関する全家庭の理解が徐々に進んできたが、さらに発信の機会を工夫して、より多くの家庭が特別支援教育を理解できるようにしていきたい。	△	
標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
いじめの根絶と不登校の早期解消に努める。	○学年末の段階でいじめ・不登校の解消率を100%にする。	○年3回のアンケート調査と迅速かつ丁寧な聞き取り・継続指導の実施。 ○パンダポスト（相談箱）の有効活用。 ○担任と教育相談コーディネーター、特別支援教育コーディネーター、カウンセラーの連携による不登校支援。	・解消率100%には至らなかった。 ・保護者アンケートで関連項目「問題や悩み、トラブルを見逃さずに対応」の十分達成・達成が76%であり、一層の取組強化が求められる。	・教員一人一人の児童理解・教育相談に関する力量を高めるための取組を推進する。	△
学習面・行動面で配慮を要する児童への対応・体制を工夫・改善・充実させるとともに、研修を通して教員の指導力を高める。	○配慮を要する児童への対応についての研修会を年間3回実施する。	○配慮を要する児童のニーズや一人一人を伸ばす指導について研修を行い、共通認識のもと、組織的な指導が進められるようにする。 ○個別の支援に当たっては、通級指導学級教員との連携により、効果的な指導方法と個別の指導機会の充実を図る。	・個別支援計画の見直しと配慮を要する児童への対応についての研修は、予定通り実施することができ、対応の改善が図られた。	・関連機関との連携も積極的に行うことができた。今後、継続して連携していきたい。	○
個別に支援が必要な児童に対して、全教員の共通理解のもと、効果的な指導が展開できるようにする。	○個別支援にかかわる情報交換を月1回以上実施する。	○担当教員・専門員・コーディネーター・カウンセラーの密接な連携により、効果的な指導方法と個別の指導機会の充実を図る。	・適宜密接な情報交換が図られ、通級児童の学習や生活に成長が見られた。	・引き続き情報交換を密にし、学級教室でもニーズにあった効果的な指導ができるようにする。	○

3. 学校活動全般について

本校の教育目標「つよく かしこく あたたく」を目指して、児童は日々の学習の積み重ねと4つ「あ」あいさつ、あつまり、あとかたづけ、あたたかいことばを心がける生活に取り組み、それぞれに成果を挙げることができました。オリンピック・パラリンピック教育では、重点事項「障害者理解」に取り組む中で、体験活動を充実させ学びを深めることができました。児童の意欲をさらに高め、力を伸ばしていくために、これまで以上に教職員一人一人が自己研鑽に励み、教師としての力を伸ばしていけるよう努めてまいります。